

プロジェクトサイクルマネジメント (2単位)

担当者氏名 高根務・板垣啓四郎

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

開発途上国の農業・農村開発協力プロジェクトを実務レベルで進めるのに必要なプロジェクトサイクルマネジメント (PCM) の手法により、関係者分析、問題分析、目的分析、プロジェクトの選択、活動計画、事後評価などの結果を踏まえて、プロジェクトデザインマトリクスを作成し、問題の因果関係を明確にするとともに有効な協力手法を修得する。PCM の考え方から PDM の作成に至る過程を説明するとともに、プロジェクトの仮想例で演習を繰り返し、PCM の手法を習得することを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

参加型計画手法

関係者分析

問題分析

目的分析

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	イントロダクション	PCMの基本概念を理解する。	◎プロジェクト立案に不可欠な実践型の方法を、ディスカッションを取り入れながら修得するので、受講生の積極的な参加が求められる。 ◎各講義で紹介される調査分析手法の事前学修とそれらを実際のプロジェクトで使用する方法に関する事後学修が求められる。
2	参加型調査	参加型調査の理念と基本アプローチを修得する。	
3	半構造型インタビュー	聞き取り調査の方法を修得する。	
4	マッピング	地図の作成を用いた調査方法を解説する。	
5	時系列データ	時系列データを用いた調査方法を実践する。	
6	フローチャート	フローチャートやダイアグラムの利用方法を修得。	
7	ランキング	農村住民の嗜好や経済格差の把握方法を解説する。	
8	参加型技術開発	住民を巻き込んだ技術実験や試行の方法を修得する。	
9	問題分析	問題分析の説明	
10	目的分析	目的分析の説明	
11	プロジェクトの選択	プロジェクト選択手法の説明	
12	PDMの作成	PDM作成手法の説明	
13	活動計画表の作成	仮想例に基づく活動計画表	
14	事例に基づく演習	事例に基づくケーススタディ	
15	総合討論	参加者による総合討論	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

講義の中で指定する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

講義の中で紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題レポート 50%、討論への参加度 50%。

◆オフィスアワー

毎週水曜 12:10-13:00

◆その他受講上の注意事項

実践的な内容や討論を多く含むので、積極的な参加が求められる。